

当院において肺移植や呼吸器疾患の治療を受けられた方のご遺族の方へ

—「エルドハイム・チェスター病肺移植症例における大血管および移植肺の病理学的再評価に関する研究」へご協力のお願い—

研究機関名およびその長の氏名：岡山大学病院 前田 嘉信

研究責任者：岡山大学病院 臓器移植医療センター 助教 田中 真

1) 研究の背景および目的

エルドハイム・チェスター病（Erdheim-Chester disease：ECD）は、全身の骨・血管・腎臓・中枢神経などに広く病変が広がる非常にまれな病気です。肺に病変を起こすこともあり、その場合は呼吸が悪くなり、時に肺移植が必要になることがあります。しかし、ECD は全身に広がる病気であるため、肺移植を行った後の長い期間で、別の臓器や移植した肺に病気が再び出てくる可能性が指摘されています。

今回の研究では、過去に岡山大学病院で肺移植を受け、後にご献体として医学部にご寄贈いただいた ECD の患者さんのご遺体を対象にしています。大動脈（からだの中心にある太い血管）や移植した肺を詳しく調べ、病気が再び出ているかどうかを調べることで、ECD が移植後のからだの中でどのように進むのかを明らかにすることを目的としています。

この結果は、ECD 患者さんの肺移植の適応判断や、術後の経過観察・管理方法をよりよくする助けになります。

2) 研究対象者

この研究は、生前に献体としての利用に同意をいただいた方のうち、エルドハイム・チェスター病と診断され肺移植を受けられた 1 名のご献体を対象とします。追加の負担や処置はありません。

3) 研究期間

研究機関の長の許可日～ 令和 9 年 3 月 31 日

試料・情報の利用開始予定日：研究機関の長の許可日から 1 週間後

4) 研究方法

岡山大学医学部にご寄贈いただいたご献体をもとに、以下の方法で調査を行います。

大動脈や移植した肺の組織を詳しく観察し、顕微鏡と免疫染色（CD68、CD1a など）を使って、ECD に特徴的とされる細胞の集まりが存在するかどうかを調べます。病変がある部位と、見た目では病変がない部位を比較し、病気の広がり方の特徴を調べます。

なお、この調査はご遺体へ新たな操作を加えるものではなく、医学部で通常行われている献体の取り扱い手順に沿って行われます。

5) 使用する試料

ご献体の大動脈および移植肺から採取した組織（ホルマリン固定標本・パラフィン包埋標本）を使用しま

す。氏名や生年月日など、個人が特定できる情報は削除したうえで研究に用います。

6) 使用する情報

カルテや献体受入れ時の資料に記録されている以下の情報を利用します。

すべての情報は個人が特定できない形に加工して使用し、プライバシー保護に十分注意します。

- ・ 年齢
- ・ 性別
- ・ 既往歴
- ・ 手術歴

7) 試料・情報の保存

研究で用いた試料・情報は、研究終了または中止後 5 年間、岡山大学病院呼吸器外科学教室において、施設可能な場所で厳重に保管します。

保存期間経過後は、個人を特定できない状態で、適切な方法により廃棄します。

8) 二次利用

この研究で得られた試料・情報を将来別の研究に用いる可能性はありません。

9) 研究資金と利益相反

この研究は特定の資金提供を受けておらず、研究者に利益相反はありません。

10) 研究計画書および個人情報の開示

ご希望があれば、個人情報を除いた研究計画書等を閲覧していただくことができます。

研究結果は、氏名・生年月日など個人を特定できる情報を含まない形で、学会や論文で発表されます。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、献体者の試料・情報が研究に使用されることについて、ご遺族の方もしくは代理人の方（ご家族の方等も拒否を申し出ることが出来る場合があります。詳細については下記の連絡先にお問い合わせください。）にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。ただし、すでにデータが解析され、個人を特定できない場合は情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

<問い合わせ・研究への利用を拒否する場合の連絡先>

岡山大学病院 臓器移植医療センター

担当者：田中 真

電話：086-223-7151（平日 8 時 30 分～17 時 00 分）